

5 児童英語教育への実際

「国際コミュニケーション能力」がかなり具体的になってきました。こうして見ると、従来の文法中心の日本の英語教育の中では、その能力の中のほんの一部(→p.39②言語能力の1, 2, 4)の3項目を目標とした授業のみをおこなってきたことがわかります。もちろん一語文、二語文でもコミュニケーションは成り立ちますが、より複雑な内容を正確に伝えるために、文章の規則を知ることは欠かせません。母国語の習得過程と異なり、第二言語、または外国語として語学を学習する場合、その言語に接している時間にかかわらず、文章の規則を学習することはターゲットの言語を習得する上で有効です。しかし、日本ではあまりにも文法能力を偏重した教育が「普通」とされてしまい、それ以外の能力を英語教育に取り入れてこなかったことが、日本人の英語力の弱化につながったのではないのでしょうか。

これでようやく、クラスの中で何を教えなければならないかが見えてきました。逆に言えば、前述した能力を育てる活動を授業の中に取り入れることで、私達の目的である「英語を使って(話し、聞き、読み、書く)コミュニケーションできる人材」が育つというわけです。

では、実際、授業での活動やゲームではどんな目標が必要でしょうか。4節で掲げた「国際コミュニケーション能力」を実際に児童英語教育に応用するために、A～Hの8つのテーマをもとに再構成したのが下の48項目です。

大人と違って、幼児や児童を教えるには「今」「ここ」に見えているものがすべてです。架空の設定された場面ではなく、現実の世界の中で日常生活体験に密接した活動を作らなければなりません。

ここでは児童英語教育では活動をおこなう際に、どんな目標を持つ活動が必要なのか具体的に考えてみましょう。

国際コミュニケーション能力を育成する活動

A「自分の考えを構築する」

- 1 既習の語彙・文型を使って自分の考えをまとめる活動
- 2 子供が自分で選択肢を選べる活動
- 3 子供が自分の考えを、段階を追ってまとめていける活動
- 4 子供の創造性を育む活動
- 5 自らが答えを探し出す活動
- 6 段階を追って自分を表現できるようになる活動
- 7 実践的な活動の中で、文章の規則を帰納的に理解する活動

- 8 答えが1つでないことを認識する活動
- 9 指導者が、前もって答えを知らない活動
- 10 子供が自由を持っている活動
- 11 みんなの前で口頭で発表する活動 (public speaking)
- 12 自分の学習を把握し、責任を持つ活動

B「情報を得る」

- 13 「知りたい」という好奇心を刺激する活動
- 14 注意して聞かなければできない活動
- 15 自分から質問しなければできない活動
- 16 情報を得るための「読む」活動
- 17 情報を正しく聞きとるための活動
- 18 理解できるまで質問しなければできない活動
- 19 わからない時は「わからない」と伝え、質問する活動

C「情報を伝える」

- 20 「教えたい」という心を刺激する活動
- 21 はっきりと言わなければできない活動
- 22 情報を正しく、確実に相手に伝える活動
- 23 情報を相互に伝え合う必要のある活動
- 24 「自分の考え」を人に伝える必要のある活動
- 25 情報を伝えるための「書く」活動
- 26 非言語で情報を伝える活動

D「自分の中で情報をまとめたり消化する」

- 27 情報をまとめるための「読む」活動
- 28 情報をまとめるための「書く」活動
- 29 事実を言語で定義する活動
- 30 得た情報を自分の言葉を使って表現する活動

E「国際的意識を持つ」

- 31 異文化に対する正しい知識を得る活動
- 32 相手の言語や文化を尊重する態度を養う活動
- 33 異文化や価値観の違うものを受け入れる活動
- 34 地球社会に目を向ける活動
- 35 社会的差別やこだわりをなくす活動

F「自尊心を持つ」

- 36 自分自身を表出させる活動
- 37 子供の自尊心を育む活動
- 38 子供の肯定思想（自己肯定）を育む活動
- 39 自分と同様に他を認める心を育む活動

G「積極的にコミュニケーションをとる態度を育む」

- 40 積極的に話しかけなければならない活動
- 41 子供同士が協力して課題を解決する活動
- 42 子供同士、情報や考えを交換する活動
- 43 他の子供の意見を聞き、取り入れながらおこなう活動
- 44 他の子供と話し合って情報を整理する力を養う活動

H「問題の全側面を見渡し、解決する」

- 45 情報間の関連を理解し、問題を多面的に考える活動
- 46 読んだり聞いたりした複数の情報を、総合的にまとめることができる活動
- 47 課題を解く情報を得るために必要な質問を選択できる活動
- 48 自発的に質問し、積極的に課題に取り組む態度を養う活動

このように活動を1つ1つ見ていくと、これらの活動には子供同士競争させる活動が入っていないことに気がつきます。子供同士競争させる「ゲーム」は、子供の活動を活発にし、楽しいものではありませんが、それは手段であって、活動の目標にはなりません。各活動は、最初は文型・語彙をコントロールした中での課題活動、その後、文型・語彙の意識的練習ではなく「目的」に支えられた活動、つまり学習者の注意が「発話の形式」ではなく、「内容」に向けられる活動に移行していきます。英語で書かれた本やインターネットから情報を選び、自分の意見をより詳しく、説得力のあるものにしながら自己表現していく過程が重要です。

なお、本書の実践編で紹介する110の活動例では先に記した48の項目を踏まえながら、言語能力としての「語彙」「言語規則」「英語の発音・リズム・イントネーション」をも含めて、活動の種類をわかりやすく下記のように分類してあります。

- 1 語彙・文型を効果的に覚える活動
- 2 インフォメーション・ギャップがある活動
- 3 創造的な考えを育み、人に伝える活動
- 4 国際理解 (self-esteemを含む) を促す活動
- 5 アルファベット (フォニックスを含む) を効果的に覚える活動
- 6 「読む」ことを中心とした活動
- 7 情報を交換しながらおこなう活動

さらに具体的に言えば、「インフォメーション・ギャップのある活動」は前述の項目のB、C、Hからなり、「創造的な考えを育み、人に伝える活動」はA、D、「国際理解 (self-esteemを含む) を促す活動」はE、F、「情報を交換しながらおこなう活動」はG、Hを考慮に入れて活動内容を構築してあります。

実際の英語の授業では、ただ「楽しい」だけの活動に終始しがちですが、「国際コミュニケーション能力を育成する活動」を参考にして、それぞれの活動の主旨および方法をあらかじめしっかりと認識することが大切です。

(2章 引用・参考文献はp.84に掲載)